



# 1 歳児を持つ夫婦の関係

持田 聖子

子どもの成長に伴って、育児の内容も変化し、妻の就業も増えるなど、家庭には生活の変化もみられる。また、子どもの誕生によって、母親・父親という新たな役割を担って約2年が経った。そのような変化の中、夫婦のお互いへの愛情の変化、家事・育児の分担、共働き夫婦の仕事と育児の両立など、夫婦の関係性の様相や相互の助け合いをみていきたい。

## ● 夫婦関係の変化

初めての子どもが1歳後半となり、子どもが家族に加わった生活を培っていく中、夫婦関係はどのように変化しているだろうか。

1歳児期のフォローアップ調査でも、夫婦関係については、妊娠期から同じ14項目を「あてはまる」から「あてはまらない」の5つの選択肢できき、妊娠期から0歳児期、1歳児期での変化をみた。

妻・夫ともに、総じて「あてはまる」の回答割合は0歳児期に比べて下降している項目が多いが、妊娠期から0歳児期での下降に比べると、その変化はゆるやかである（図3-1、図3-2）。妻・夫ともに、0歳児期からの下げ幅がもっとも大きいものは、「配偶者といると本当に愛していると実感する」であった。「あてはまる」の回答割合で、妻は44.7%から35.7%へ9.0ポイント、夫は64.3%から54.7%へ9.6ポイント下がった。妻は、妊娠期には74.8%が「あてはまる」と回答していたが、1歳児期になると、その割合は4割に満たない。次に下げ幅が大きいものは、「私の配偶者は、私の仕事、家事、子育てをよくねぎらってくれる」で、妻は50.3%から41.6%へ8.7ポイント、夫は55.9%から48.1%へ7.8ポイント低下した。

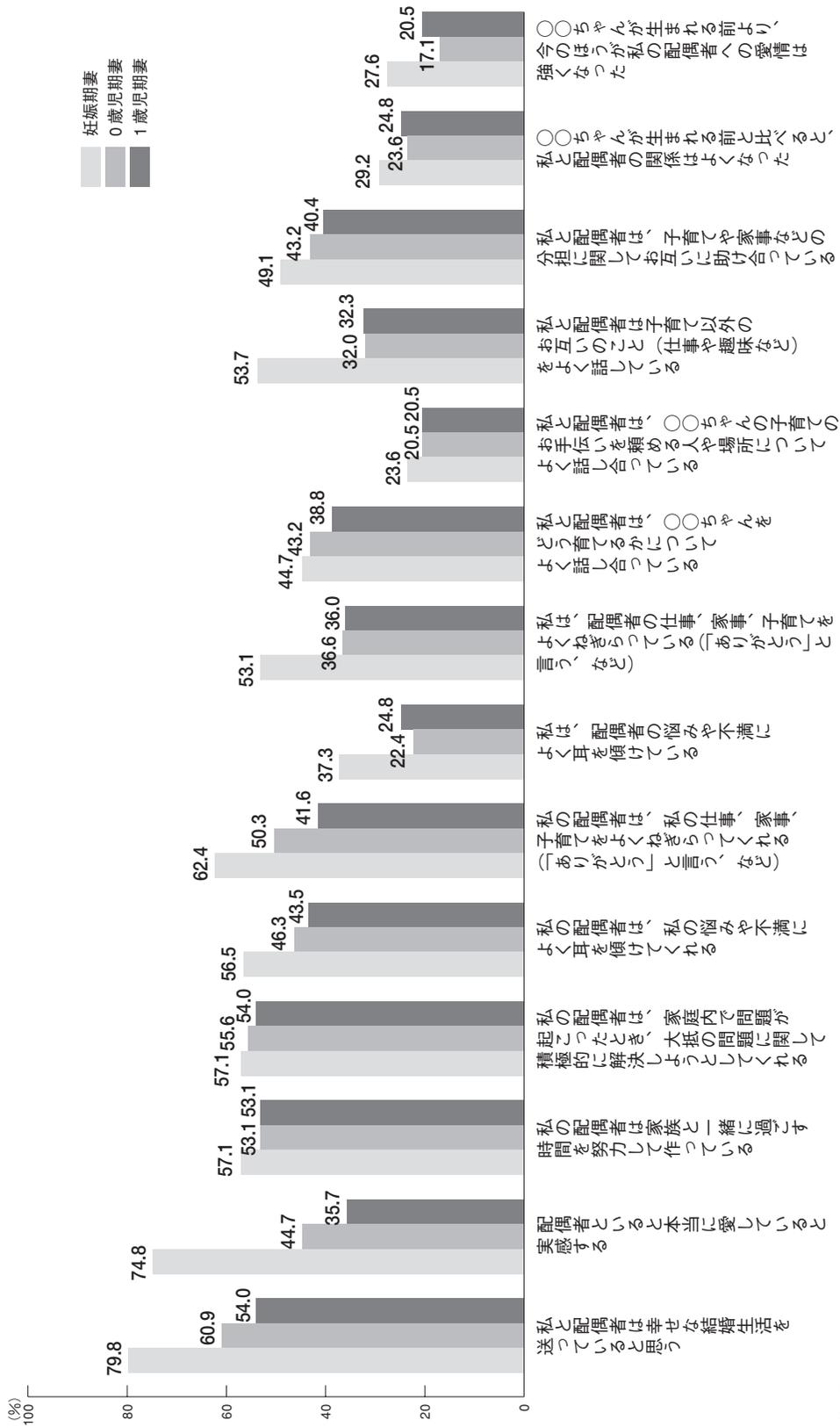
初めての子どもが生まれ、1歳児へと成長する間に、夫婦のお互いへの愛情が低下していくのはなぜか。また、仕事や育児、家事をお互いにねぎらうことも減っていくのはなぜか。

## ● 妻の夫への愛情の変化に影響する要因

妊娠期から0歳児期を経て1歳児期へと経過する中で、妻において、もっとも夫婦関係で変化があった「配偶者といると本当に愛していると実感する」について、何が妻の愛情の低下に関係があるかをみてみたい。

まず、同じく下げ幅の大きかった「私の配偶者は、私の仕事、家事、子育てをよくねぎらってくれる」という設問との関係をみてみると、夫からのねぎらいが多い群（「あてはまる」＋「ややあてはまる」）は、少ない群（「どちらともいえない」＋「あまりあてはまらない」＋「あてはまらない」）より、夫への愛情を実感すると回答した割合が36.0ポイント高かった（図3-3、「あてはまる」＋「ややあてはまる」で比較）。

図3-1 夫婦関係（妊娠期妻・0歳児期妻・1歳児期妻）



注)「あてはまる」の%。

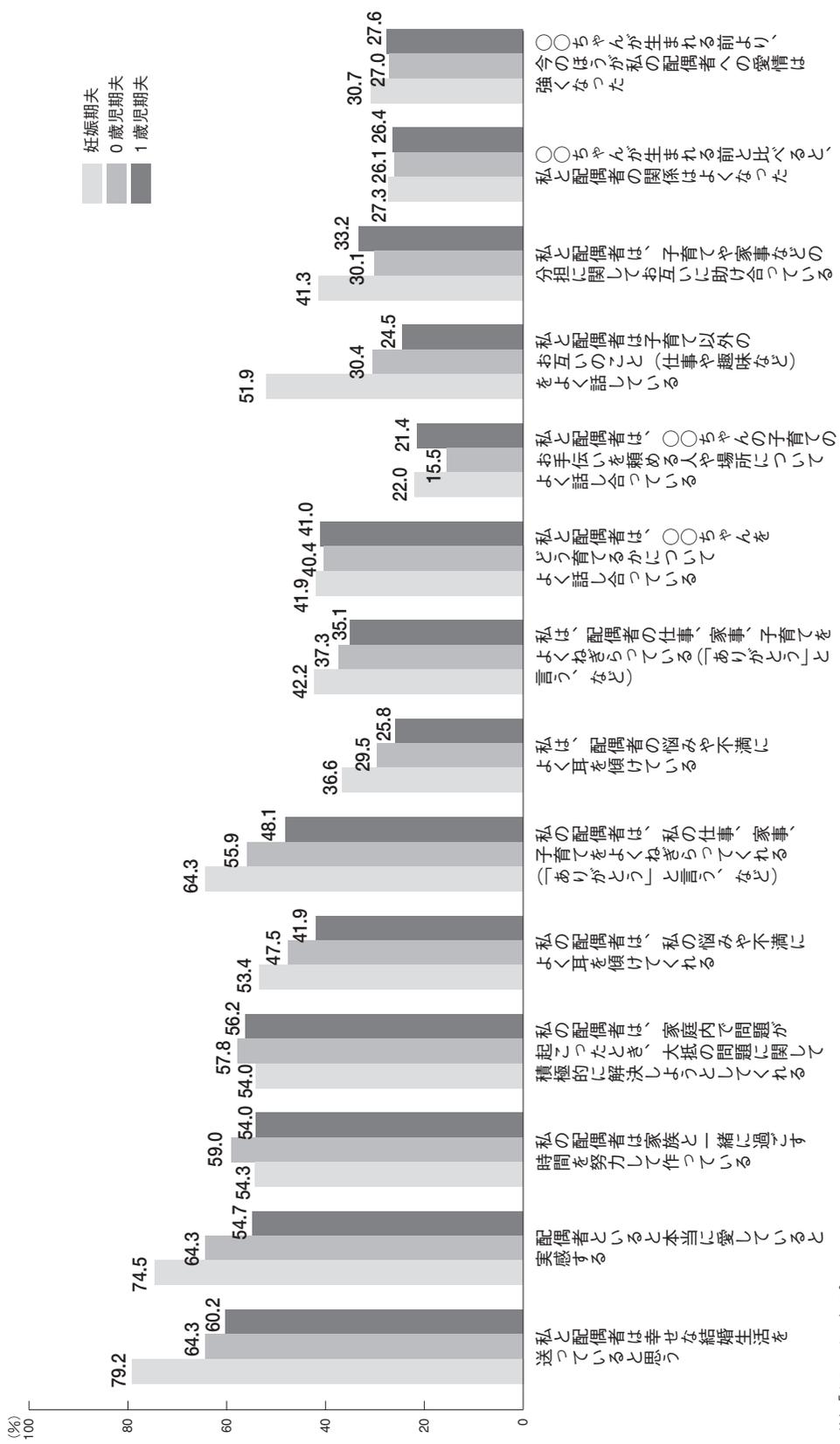
次に、「私と配偶者は、子育てや家事などの分担に関してお互いに助け合っている」という設問との関係をみてみると、助け合いの高い群（「あてはまる」＋「ややあてはまる」）は、助け合いの低い群（「どちらともいえない」＋「あまりあてはまらない」＋「あてはまらない」）より、夫への愛情を実感する割合が21.2ポイント高かった（図3-4、「あてはまる」＋「ややあてはまる」で比較）。夫の育児への取り組みの実態との関係もみるため、家事・育児の実態についての質問から、「〇〇ちゃんと遊ぶ」「〇〇ちゃんのおむつ替え・トイレ」「〇〇ちゃんを寝かしつける」「〇〇ちゃんがぐずったとき、落ち着かせる」「〇〇ちゃんが悪いことをしたとき、注意する」という育児に関する5項目について取り組む頻度を得点化し、育児頻度得点が高い群と低い群に分けた上で、対応する妻の夫への愛情と、夫からのねぎらいを受けているかをみた（図3-5）。夫の育児頻度得点が高い妻の群では、「配偶者といると本当に愛していると実感する」に「あてはまる」と回答した割合は42.7%であったが、低い群では29.2%であった。「私の配偶者は、私の仕事、家事、子育てをよくねぎらってくれる」については、夫の育児頻度得点が高い妻の群では、48.4%が「あてはまる」と回答したが、低い群では34.2%であった。夫自身が育児に取り組むことで、妻の苦勞もより実感し、妻へのねぎらいの気持ちも生まれるのであろうか。

## ● 家事・育児の分担

まず、子どもが0歳児期と1歳児期の育児について、妻のデータで変化をみてみたい。本調査では、家事についての3項目（洗濯、掃除、炊事）と育児についての4項目（〇〇ちゃんと遊ぶ、おむつ替え・トイレ、寝かしつけ、ぐずったとき落ち着かせる）について、0歳児期と1歳児期で、その頻度と大変さについてきた。頻度は、家事・育児とも、0歳児期とほとんど変化はなかった。育児項目について、大変さ（「とても大変である」＋「やや大変である」）について比較すると、子どもが1歳になって大変さが減ったものは、「〇〇ちゃんのおむつ替え・トイレ」（0歳児期20.5%、1歳児期15.8%）と「〇〇ちゃんを寝かしつける」（0歳児期42.5%、1歳児期31.7%）であった（図3-6）。子どもが1歳になって大変さが増えたものは、「〇〇ちゃんと遊ぶ」（0歳児期15.8%、1歳児期27.0%）と「〇〇ちゃんがぐずったとき、落ち着かせる」（0歳児期37.5%、1歳児期42.2%）であった。また、1歳児期のみの設問で「〇〇ちゃんが悪いことをしたとき、注意する」は、約4割の妻が大変だと感じている。子どもが1歳になり、歩くようになって活動範囲が広がり、言葉も発達し、自我も芽生え、母親への子どもの要求も多くなっていく。そんな子どもの成長に伴って、母親が大変だと感じる内容が変わってくるようである。

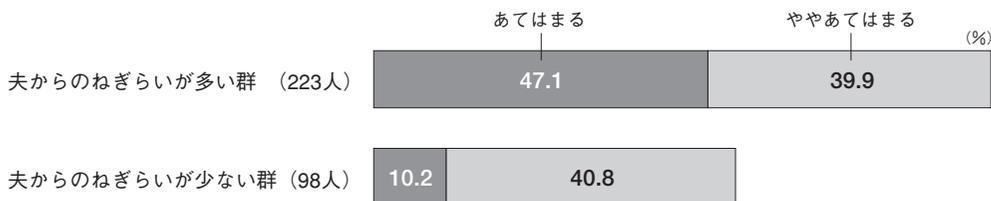
夫の家事・育児の実態をみると、家事については、総じて「ほとんどしない」という回答が多い（「洗濯」61.2%、「掃除」50.3%、「炊事」33.5%）（図3-7）。家事を行う場合でも、頻度は「週に1～2回する」程度が多い（「洗濯」24.8%、「掃除」43.8%、「炊事」35.1%）。おそらく仕事に追われ、家事は定休日や週末などに行っているのだろう。育児については、「〇〇ちゃんと遊ぶ」と「おむつ替え・トイレ」については、「ほとんど毎日する」という回答がもっとも多い（「〇〇ちゃんと遊ぶ」41.9%、「おむつ替え・トイレ」31.1%）が、「〇〇ちゃんを寝かしつける」や「〇〇ちゃんがぐずったとき、落ち着かせる」は、家事同様、「週に1～2回する」や「ほとんどしない」が多くなっている。子どもと遊ぶことやおむつ替えなどは、朝や仕事から帰った後、短時間でも取り組めることであるが、寝かしつけのように、仕事からの帰宅が遅いと取り組みに

図3-2 夫婦関係（妊娠期夫・0歳児期夫・1歳児期夫）



注) 「あてはまる」の%。

図 3-3 配偶者といると本当に愛していると実感する  
(1歳児期妻、夫からのねぎらいが多い・少ない群別)



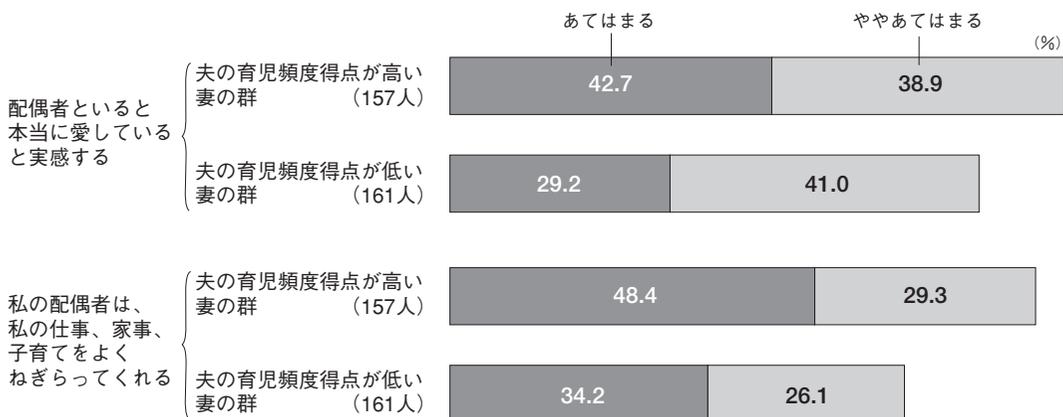
注) 夫からのねぎらいが多い群=妻の「私の配偶者は、私の仕事、家事、子育てをよくねぎらってくれる」で、「あてはまる」+「ややあてはまる」と回答した人。  
夫からのねぎらいが少ない群=妻の「私の配偶者は、私の仕事、家事、子育てをよくねぎらってくれる」で、「どちらともいえない」+「あまりあてはまらない」+「あてはまらない」と回答した人。

図 3-4 配偶者といると本当に愛していると実感する (1歳児期妻、妻・助け合い高・低群別)



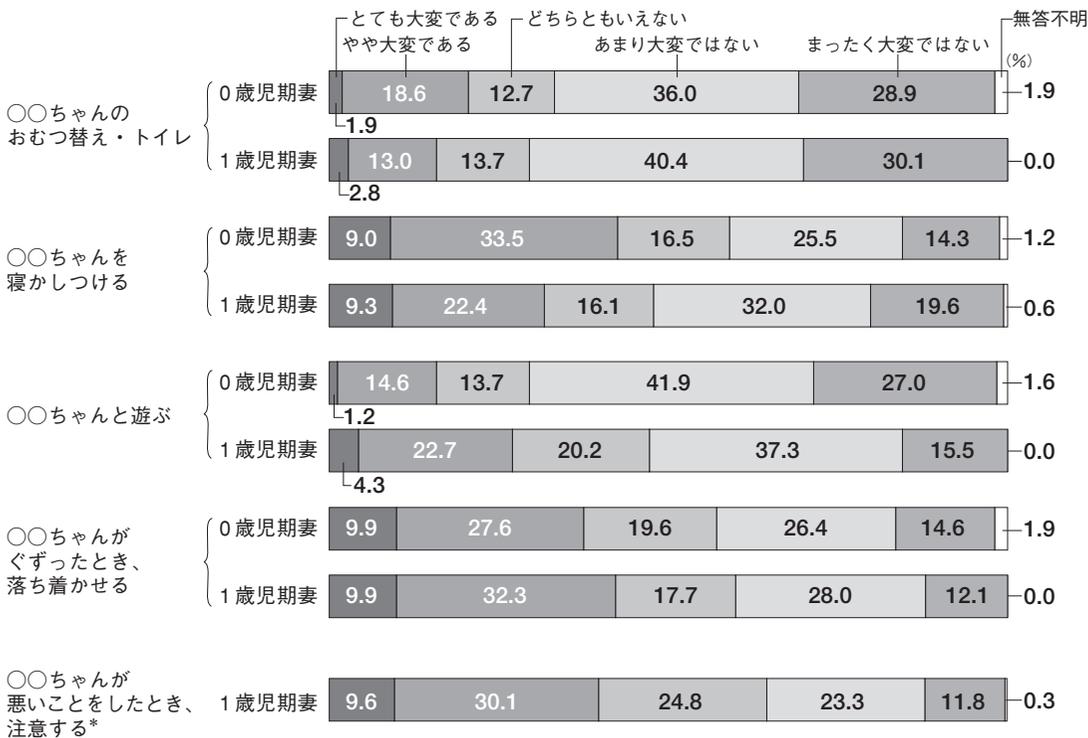
注) 妻・助け合い高群=妻の「私と配偶者は、子育てや家事などの分担に関してお互いに助け合っている」で、「あてはまる」+「ややあてはまる」と回答した人。  
妻・助け合い低群=妻の「私と配偶者は、子育てや家事などの分担に関してお互いに助け合っている」で、「どちらともいえない」+「あまりあてはまらない」+「あてはまらない」と回答した人。

図 3-5 夫の育児への取り組みと妻の夫への愛情・夫からのねぎらい  
(1歳児期妻、夫の育児頻度得点が高い・低い群別)



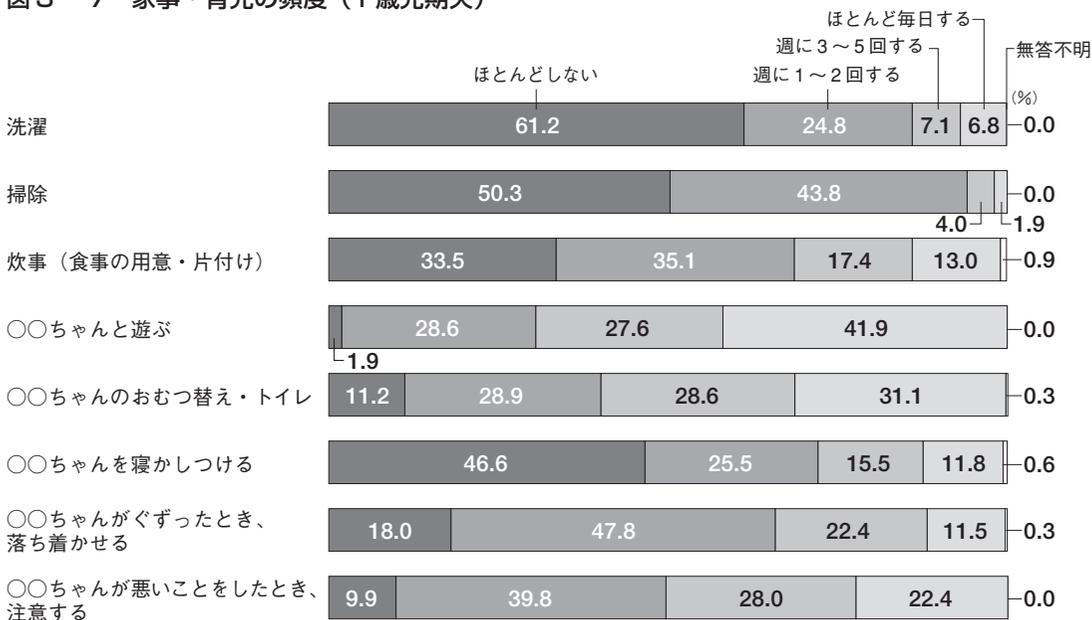
注) 夫の育児への取り組み(遊ぶ、おむつ替え・トイレ、寝かしつけ、ぐずったときの落ち着かせ、悪いことをしたときの注意)の頻度を得点化し、育児頻度得点の高い群と低い群に分けた上で、対応する妻の「配偶者といると本当に愛していると実感する」と「私の配偶者は、私の仕事、家事、子育てをよくねぎらってくれる」についての割合を出した。

図3-6 家事・育児の大変さ (0歳児期妻・1歳児期妻)



注) \*は1歳児期のみ設問。

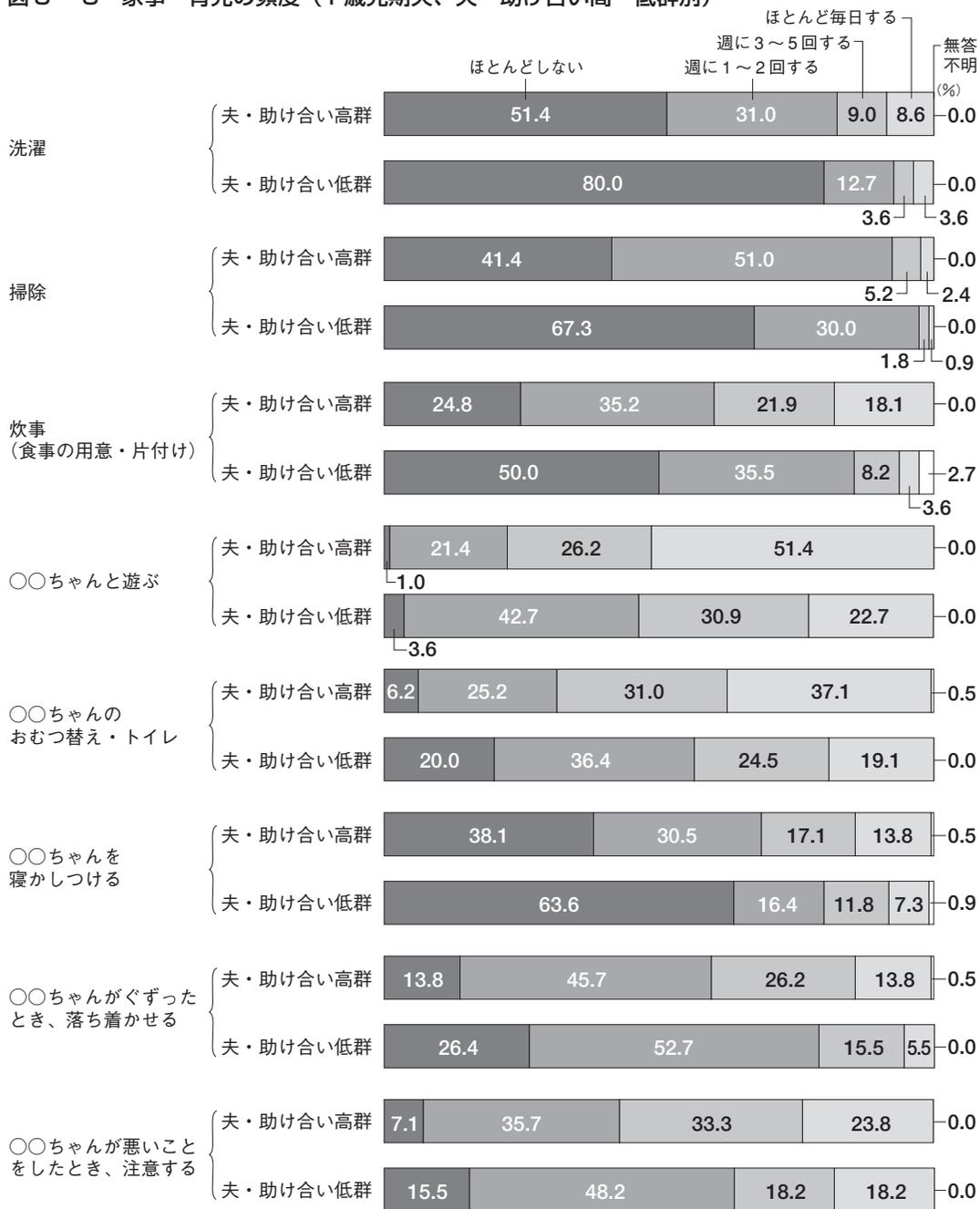
図3-7 家事・育児の頻度 (1歳児期夫)



くいことは、頻度が下がっている。妻が、仕事で疲れた夫に頼むのを遠慮しているということもあろう。

妻との家事・育児の分担状況について、夫のデータで、「私と配偶者は、子育てや家事などの分担に関してお互いに助け合っている」の設問に対する回答によって、助け合いの高い群（「あてはまる」＋「ややあてはまる」）と助け合いの低い群（「どちらともいえない」＋「あまりあてはまらない」＋「あてはまらない」）に分け、家事・育児の取り組み状況を比べてみた（図3-8）。その結果、夫の自己評価ではあるが、家事・育児項目いずれも、助け合いの高い群のほうが、取り組む頻度が高い。仕事が休みの日はパパが担当、というように、夫婦の間で取り決めがされているのだろうか。

図3-8 家事・育児の頻度（1歳児期夫、夫・助け合い高・低群別）



注) 夫・助け合い高群 (210人) = 夫の「私と配偶者は、子育てや家事などの分担に関してお互いに助け合っている」で、「あてはまる」 + 「ややあてはまる」と回答した人。  
 夫・助け合い低群 (110人) = 夫の「私と配偶者は、子育てや家事などの分担に関してお互いに助け合っている」で、「どちらともいえない」 + 「あまりあてはまらない」 + 「あてはまらない」と回答した人。

## ● 妻の就業

本調査では、妻を対象に、妊娠期からの就業状況の変遷を追っている。現在、仕事を持っているかどうかを妻にきいたところ、1歳児期では30.7%が仕事を持っていた（図3-9）。0歳児期では仕事を持っている妻は16.5%だったが、1歳児期になって妻の就業率は妊娠期の32.6%とほぼ同じ割合に回復した。

〇〇ちゃんの妊娠・出産と就業状況を追ってみると、現在、仕事を持っている妻の67.0%は、〇〇ちゃんの妊娠を機に仕事を「やめなかった」と回答している（図3-10）。出産後、新たな仕事を始めるというより、産休・育児休業などを経て復職をした妻が多いと推測される。

女性と仕事についての考えをきいた設問では、現在仕事を持つ妻の46.5%が「結婚して子どもが生まれてもずっと仕事を持ち続けるのがよい」（就業継続志向）と回答している（図3-11）。次に多いのは「仕事は持つが、結婚して子どもが生まれたら一時やめて、子どもが大きくなったらまた仕事を持つのがよい」という再就職志向で、44.4%であった。対して、現在仕事を持たない妻は、77.3%が再就職志向の回答で、就業継続志向はわずか10.5%であった。夫にも女性と仕事についての考え方をきいたが、仕事を持つ妻の夫は、女性と仕事についての就業継続志向は34.3%いたが、再就職志向がもっとも多く50.5%であった。仕事を持たない妻の夫の場合は、再就職志向が63.2%で、就業継続志向はわずか5.0%であった。仕事を持たない妻の夫は、「仕事は持つが、結婚して子どもが生まれたらやめるのがよい」という考え方の人も10.0%おり、再就職志向と合わせると7割以上が、子どもが生まれたら女性が仕事をやめることを望んでいる。妻が妊娠・出産を機に仕事をやめるのは、夫からの要望も影響しているのかもしれない。

## ● 仕事と育児の両立の助け合い

現在仕事を持っている妻・夫に、子どもの病気などが原因で会社を休んだり、遅刻・早退したりしたことがあるかどうかをきいた。図3-12は、仕事を持つ妻と、その夫でその頻度をみたものである。妻の4人に1人が、「月に1～2回程度ある」（28.3%）か「2～3か月に1回程度ある」（26.3%）と回答している。子どもを保育園などに預けるとすると、特に入園当初は頻繁に、また突然に熱を出したりすることがある。もし月に2日仕事を休むと、年間では子どもの病気のために20日以上休まねばならないことになる。改正育児・介護休業法では、未就学児が2人以上いる場合は、保護者は年間10日まで看護休暇がとれることになるが（現在は子どもの数にかかわらず5日まで）、その早い施行と定着が望まれる。妻が仕事を持っている夫の場合、「2～3か月に1回程度ある」と回答した夫は20.4%いるが、「月に1～2回程度ある」はわずか8.2%で、「ほとんどない」が31.6%、「まったくない」が24.5%もいる。共働きの夫婦であっても、子どもが病気などの時の対応や看病は、妻などにゆだねる夫が多い実態がうかがわれる。

図3-9 妻の就業状況（妊娠期妻・0歳児期妻・1歳児期妻）

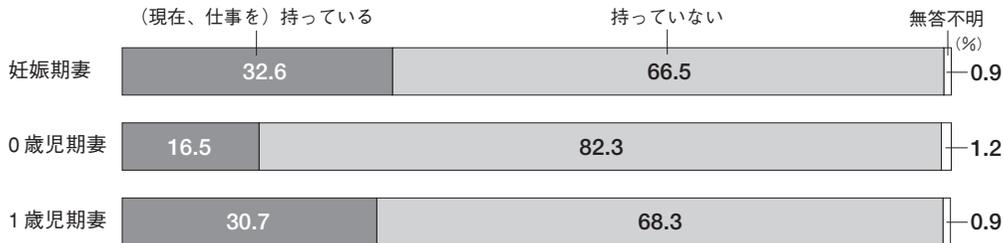


図3-10 妊娠・出産を機に仕事をやめたか（1歳児期妻）



注) ○○ちゃんの妊娠がわかった時点で仕事をしていたと回答した235人のうち、現在仕事を持っている91人についての割合。

図3-11 女性と仕事についての考え方（1歳児期妻・夫、妻の仕事の有無別）

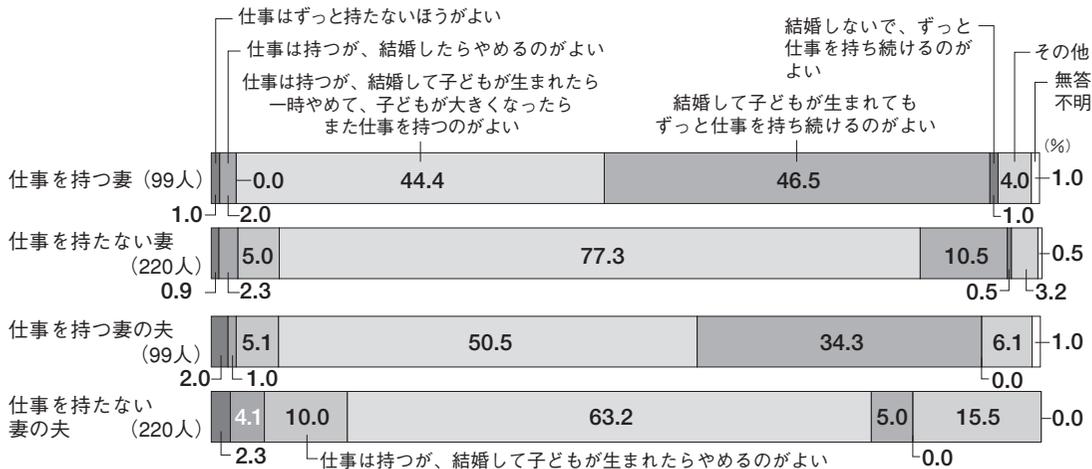
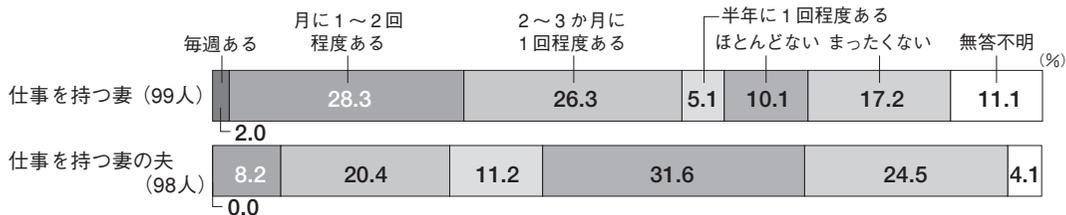


図3-12 子どもの病気などによる欠勤、遅刻・早退（1歳児期妻・夫）



注) 仕事を持つ妻の夫99人のうち、現在仕事を持っている98人についての割合。